

## ポイント

○新規就農者の総合的な支援事業として、酒田市での就農を目指す者に対し、「就農希望」、「就農準備」、「就農開始」の各段階に応じた支援を実施し、円滑な就農促進と新規就農者の農業経営の早期確立を図る。

## 事業内容

就農希望

- ◆「新・農業人フェア」出展  
「新・農業人フェア」など全国規模で開催される新規就農相談イベントに出展し、就農希望者を呼び込む。
- ◆高校生・大学生への就農宣伝活動  
山形県立農林大学校の学生や農業高等学校の高校生を対象に、市内での就農PRチラシを配布し、新規就農者を発掘する。
- ◆「食と農のビジネス塾」開催支援  
農業を志す青年等の経営力・技術力強化について地域を挙げて支援し、地域農業の発展と地域経済の振興を図るため、地域連携農業者コンソーシアムが開催する「食と農のビジネス塾」を支援する。

就農準備

- ◆農業インターンシップ受入  
農業体験・短期研修希望者と先進的農業経営体とのマッチングを支援し、市内での体験・研修を積み、就農を後押しする。  
【対象者】研修生受入経営体  
※スマート農業研修センターが実施する「スマート農業体験」も受入可能  
【受入経営体謝金】研修生1人につき1日あたり2,000円  
【研修期間】上限50日

就農開始

- ◆さかたで独立就農支援事業費補助金  
新規就農に必要な初期投資経費を支援し、農業経営の早期確立を図る。  
※経営開始初年度の経費のみ対象  
○事業の流れ (■事業実施者 ■市)
- 相談申請

審査会

交付決定

事業実施

実績報告

確定交付
- 【審査ポイント】事業と市の施策の整合性、事業主体の積極性、事業の経営に対する効果度合、事業の将来的な発展性等

## 事業目標

酒田市で新たに農業を始める新規参入就農者、新規学卒就農者、U I Jターン就農者、雇用就農者による新規就農者を確保する。

◆新規就農者 20人

| 過年度実績 |     |
|-------|-----|
| H28年度 | 15人 |
| H29年度 | 17人 |
| H30年度 | 21人 |



## さかたで独立就農支援事業費補助金

【対象者】本市で、新たに独立・自営で農業を営む意欲のある者

【補助率】定額（上限1,000千円）

【対象経費】

○農地借上料

・酒田市農業委員会を通じた賃貸借に限る。

○資材等購入費

・パイプハウス資材購入費、農業用小型機械購入費、肥料費、農薬費、種苗費、諸材料費 等

○農業用機械等借上料

・トラクター（レンタル）  
・軽トラック（リース） 等

●お問合せ

酒田市 農林水産部 農政課  
担い手支援係 Tel.26-5766

## ポイント

○農業生産法人、生産部会等の生産者団体や認定農業者（個人）が実施する、**園芸作物の導入**や**生産コストの低減**、**省力化**等の取り組みに対して支援を行うことにより、**複合経営の基盤強化**と本市農産物の産地化を図り、**酒田ブランド**を構築する。

## 事業内容

### ◆さかた農産物ブランド化チャレンジ支援事業費補助金

#### 1. 事業内容及び補助対象経費

##### (1) 整備関係

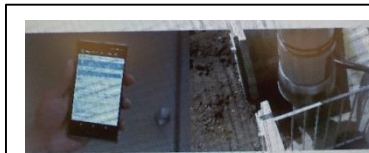
- ・パイプハウス資材等の園芸施設整備、井戸整備、播種機、肥料散布機、選果機等の機械導入に係る経費
- ・新たな栽培技術の導入、水位監視、ハウス内監視、作業記録、ドローン等を活用したICTシステム等の導入に係る経費
- ・簡易な畦畔の除去等、圃場整備に係る経費



播種機などの導入

##### (2) 生産支援関係

- ・土壌成分分析に係る経費
- ・技術習得のための研修会等の開催経費（講師の旅費、会場費等）
- ・種苗、生産資材等の購入に係る経費（同一申請者において1回まで）



ICTシステムの導入

#### 2. 事業対象者

- (1) 2戸以上の農業者等で構成する農業者団体、農業法人等
- (2) 認定農業者（個人）

#### 3. 補助率及び補助上限額

##### (1) 補助率

- ・水田での取り組み 1/2以内
- ・畑地・果樹園等での取り組み 1/3以内

##### (2) 補助上限額

- ・団体 1,000千円
- ・個人 500千円



技術研修会の開催

## 補助金交付までの流れ

事業計画の策定・交付申請  
(事業主体→市)

審査会の開催（市）

### 【審査のポイント】

- 事業と市の施策の整合性
  - 事業主体の積極性
  - 事業の経営に対する効果度合
  - 事業の将来的な発展性
- などをポイント化して、高いものから優先的に採択する。

事業計画の承認、交付決定  
(市→事業主体)

事業実施（事業主体）

実績報告（事業主体→市）

確定、補助金交付（市→事業主体）

## 事業目標

### ◆さかた農産物ブランド化チャレンジ支援事業費補助金

- ①酒田ブランドの構築 5品目  
振興品目の栽培に重点的に支援を行うことにより産地化を図り、酒田ブランドを創出する。
- ②農業産出額の向上 10%  
園芸品目の導入や事業実施による作業の効率化、低コスト化等を図り、農業所得と農業生産額の向上を目指す。



### ●お問合せ

酒田市 農林水産部 農政課  
複合経営振興係 TEL26-5752

## ポイント

- 「酒田市鳥獣被害防止計画」（平成29年3月策定）で定めた基本的な方針や被害の軽減目標の達成に向け、平成30年度から酒田市鳥獣被害対策実施隊を新設し、地域における農作物の被害対策を的確かつ効果的に実施している。

## 事業内容

### ◆鳥獣被害対策実施隊の設置

市長が任命する者によって構成する有害鳥獣被害対策実施隊を設置し、クマの出没による箱わなの設置、撤去、運搬、巡視作業や、鳥類の追払活動などを実施する。

### ◆野生鳥獣被害防止対策の指導者養成費及び実習資材購入費等の支援

被害対策の助言、指導ができる人材を育成することを目的に開催される指導者養成研修会に有害鳥獣被害対策実施隊員が参加する際の旅費及び、実際の指導に必要な資材を購入する。

### ◆有害鳥獣被害軽減事業費補助金

1. 事業内容 鳥獣被害防止のための農用地での電気柵の設置
2. 事業対象者 農業者、農業者グループ等
3. 補助率 1/2以内（県1/4、市1/4）
4. 補助上限額 200千円

## 鳥獣被害対策実施隊員への優遇措置

### 1. 技能講習の免除

一定の要件を満たす実施隊員については、銃刀法に基づく猟銃所持許可の更新等の申請に際して、技能講習が免除される。

### 2. 狩猟税の軽減

実施隊員のうち、主として捕獲に従事することが見込まれる者（対象鳥獣捕獲員）は、狩猟税が非課税。（狩猟者16,500（散弾銃等）円→0円）（平成31年3月31日までの措置）

### 3. 公務災害の適用

実施隊員のうち、民間の隊員については非常勤の公務員となり、被害対策上の災害に対する補償を受けることができる。

### 4. ライフル銃の所持許可の特例

実施隊員であれば、継続して10年以上猟銃の所持許可がなくても、銃刀法に規定する「事業に対する被害を防止するためライフル銃による獣類の捕獲を必要とする者」として、ライフル銃の所持許可の対象になり得る。

## 事業目標

### ◆農作物被害額の減少（酒田市）

|         |            |
|---------|------------|
| 現状（H28） | 37,094千円 ※ |
| （H29）   | 30,390千円 ※ |
| 目標（H31） | 30,000千円   |

※：「農作物の野生鳥獣による被害状況調査」より

### ◆対象鳥獣（酒田市）

ハクビシン、ハシブトカラス、ハシボソカラス、ツキノワグマ、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカ、ムクドリ、カワウ



クマ捕獲用の箱わな

●お問合せ  
酒田市 農林水産部 農政課  
複合経営振興係 TEL26-5752



## ポイント

- 友好都市や武蔵野市アンテナショップ「麦わら帽子」をはじめとした首都圏での酒田産農林水産物のPRを行い、販売促進を図る。
- 田園調布学園の酒田ファームステイ受入やグリーン・ツーリズムの推進により、都市住民との交流拡大による地域の活性化を図る。

## 事業内容

### ◆首都圏での酒田産農林水産物のPR活動 1,962千円

#### 1. 物販イベント等での酒田産農林水産物のPR

友好都市である東京都北区や東京都武蔵野市で開催するイベント等において、本市農林水産物のPRを行い、イメージアップと販売促進を図る。



#### 2. アンテナショップ販売促進支援

武蔵野市との友好都市で構成するアンテナショップ「麦わら帽子」の事業支援を行うほか、毎月の酒田フェア開催日に販売員を配置（7月と11月は販売強化月間として2日間配置）し、本市のPRと農林水産物の販売促進を図る。



### ◆都市住民との交流活動 1,484千円

#### 1. 酒田ファームステイ実行委員会負担金

田園調布学園の農村体験教育旅行を受け入れ、本市の農業や食文化、生活体験の場を提供し、本市のPRや交流拡大を図る。



- ・開催日 8月23日(金)～26日(月) 3泊4日
- ・受入人数 中等部2年生215人
- ・受入家庭 72戸（1家庭あたり3人）

#### 2. グリーン・ツーリズム推進協議会負担金

酒田市及び山形県のグリーン・ツーリズム推進協議会の活動を支援し、農業体験交流等による地域活性化を図る。

## 事業目標

- ◆アンテナショップにおける酒田産農産物の販売拡大【年間販売額 34,000千円】
- ◆グリーン・ツーリズムの受入による本市及び農産物のPR【農業体験者数 2,300人】

●お問合せ  
酒田市 農林水産部 農政課  
総合農政係 Tel.26-5792

## ポイント

- 農業者自らが行う販路拡大の取り組みを支援し、激しい産地間競争を勝ち抜き、足腰の強い農業経営の強化を図る。
- 全国規模で開催される第10回全国ねぎサミットに参加し、酒田産農産物のPRを図る。

## 事業内容

### ◆農産物販路拡大支援事業費補助金

#### 1. 事業内容

- (1) 国内外で行われる、食に関する見本市や商談会でのプロモーション活動、販売活動などの販路拡大に取り組む団体等を支援する。
- (2) 友好都市との交流事業の一環として酒田産農産物のPR、販売活動を実施する団体等を支援する。

#### 2. 事業対象者

2戸以上の農業者等で構成する農業者団体、農業法人等

#### 3. 補助対象経費

借上料（出展料、会場借上料、車両借上料など）、  
役務費（荷物送料など）、旅費、需要費（消耗品など）等

#### 4. 補助率

- (1) 新規販路拡大コース 定額 上限300千円
- (2) 友好都市販売活動コース 定額 上限100千円

#### 5. 補助金交付までの流れ



### ◆全国イベントへの参加

第10回全国ねぎサミット（11月、松戸市）

### ◆酒田の花でおもてなし

- ・市役所正面玄関での来庁者への酒田産花きのPR
- ・外航クルーズ船寄港時等、集客の見込めるイベントでの酒田産花きを使ったオブジェ等展示によるPR

## 事業目標

◆補助金（新規販路拡大）交付件数 3件

◆補助対象事業（友好都市販売活動）  
の平均販売金額 300千円

食に関する見本市や商談会等を通して、酒田産農産物のPRや交流事業などで販路の拡大を目指す。また、生産者が実施する販売活動や見本市等への出展は、生産者自らの大きな刺激や励みとなって、生産者の意識改革が図られる。



●お問合せ  
酒田市 農林水産部 農政課  
総合農政係 TEL26-5792  
複合経営振興係 TEL26-5752

## ポイント

○酒田産農産物等の海外での新たな需要の確保による輸出の拡大と、販売額向上による農業者の所得確保に向けて、酒田地区農産物輸出推進協議会が中心となって取り組む。

## 事業内容

花きのさらなる輸出拡大と、米を含む他の農産物の販路拡大を図るとともに、輸出に向けた生産管理の構築に向けた取り組みを展開する。

### ◆品目のPR活動

- ・農産加工品のサンプル品等によるPR活動
- ・販促グッズ等PRツールの製作

### ◆現地プロモーション活動

- ・海外でのプロモーション活動等による宣伝及び広報活動
- ・ロシアでの交流によるつながりを大切に、啓翁桜の輸出を軌道に乗せる取り組み

### ◆品質管理活動支援

- ・中国等輸出相手国の検疫に対応するための生産体制の確立
- ・輸出向けの栽培管理マニュアルの作成及び輸送テストの実施

### ◆情報収集活動等

- ・各種セミナーへの参加による情報収集
- ・意見交換会の開催等による情報共有

### ◆酒田港、庄内空港の活用

- ・米を含む他の農産物の酒田港、庄内空港を活用した輸出ルートの実証



エルミタージュ美術館での啓翁桜の展示



酒田港西ふ頭くん蒸上屋（米の輸出）

## 事業目標

- ◆米・果樹等 130トン
- ◆花き 23,000本

花きについては現地での評価も高く、取引の拡大が期待できる。米を含む他の農産物についても、プロモーション活動を展開しながら、新たな販路拡大を図る。

## 酒田地区農産物輸出推進協議会

- 役員
  - 会長 酒田市長
  - 副会長 遊佐町長、JA庄内みどり組合長
  - 監事 酒田市農業委員会会長
- 構成
  - 酒田市、遊佐町、JA全農山形、JA庄内みどり、JA酒田市袖浦、酒田市農業委員会、山形県
  - 計20名（委員6名、幹事8名、アドバイザー6名）
- 設立
  - 平成27年4月28日

## 輸出実績

|           | H28   | H29    | H30(見込み) |
|-----------|-------|--------|----------|
| 米・果樹等 (t) | 27.4  | 0.1    | 131      |
| 花き (本)    | 7,490 | 20,970 | 22,000   |

●お問合せ  
 酒田市 農林水産部 農政課  
 総合農政係 TEL26-5792



## ポイント

- 平成29年3月に策定した「酒田市食育・地産地消推進計画（酒田市6次産業化戦略）」に基づき、食育と地産地消の推進を総合的に実施する。
- 「農林水産まつり」の開催、県内外で行われるイベントへの酒田産米の提供などにより、本市の優れた農産物を広く紹介し、農業者と消費者の相互理解を深めるとともに、米をはじめとした酒田産農産物の消費拡大を図る。
- 本市内の全小中学校の学校給食に地域産1等米「はえぬき」、「つや姫」、「雪若丸」を供給し、米を主食とした日本型食生活の形成・定着等を基本としながら米消費の維持拡大を図る。

## 事業内容

### ◆酒田市農林水産まつり

1. 開催予定日 10月26日（土）・27日（日）
2. 開催予定会場 国体記念体育館
3. 開催概要 「さかた産業フェア」と同時開催（平成30年度～）

### ◆地域産米学校給食負担金

1. 対象者 市内小中学校全30校の児童、生徒及び教職員
2. 米飯学校給食実施回数 年間197回（約80トン使用）予定
3. 負担方法 国が定める2等米（基本的に保護者負担）と地域産1等米（はえぬき、つや姫、雪若丸）との差額を、JA等関係団体と市が負担する。

### ◆米消費拡大推進協議会負担金

1. 地域産米のさらなるPR活動を展開するため、ポスターやパンフレットを作成する。
2. 地域産米の認知度向上や販路拡大を図るため、県内外で開催されるイベントで地域産米を提供する。
3. 学校給食において地域産100%の米粉パンを市内の小中学校全30校で年2回実施し、通常のパン給食（基本的に保護者負担）との差額を負担する。
4. 幅広い年代に米粉をPRするため、米粉利用料理教室やレシピコンテストを開催する。

### ◆食育交流活動補助金

市内の保育園、幼稚園、小中学校における農業体験や調理実習等の食育交流活動に取組む農業者を支援する（補助上限額 1件あたり25,000円）。

### ◆食育・地産地消推進委員会の開催など

食育・地産地消、6次産業化に関する制度や施策等について協議する委員会を開催する。

## 事業目標

農業者等が消費拡大事業に取り組むことにより、より安全で安心な農産物を消費者に提供しようとする意欲や、消費者の食文化に関する関心の増大が期待される。

◆農林水産まつり来場者数 15千人

◆市設置農産物直売所来客数 245千人

対象施設：ふれあいの滝産直ららら、  
産直たわわ、めんたま畑、  
悠々の杜農産物直売所



●お問合せ  
酒田市 農林水産部 農政課  
総合農政係 Tel26-5792

## ポイント

○水田・畑作・野菜・果樹等について、平場・中山間地域など、地域の営農戦略として定めた「**産地パワーアップ計画**」に基づき、意欲のある農業者等が**高収益な作物・栽培体系への転換を図るための取り組み**を、**すべての農作物**を対象として総合的に支援する。

## 事業内容

### ◆産地パワーアップ事業

1. 事業内容
  - (1) 農業用機械の購入またはリース導入
  - (2) 生産資材導入（工事費は対象外）
2. 補助対象  
農業者（個人・農業法人）、農業者の組織する団体、土地改良区
3. 補助率 1／2以内
4. 事業要件  
事業終了2年後を目標年度とする「産地パワーアップ計画」
  - (1) 目標年度の成果目標  
次のいずれかに産地全体で取り組む
    - ①生産コストの10%以上の削減
    - ②販売額または所得額の10%以上の増加
    - ③契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%の契約割合
    - ④輸出向け出荷量または出荷額の10%以上の増加
  - (2) 目標年度の面積要件  
稲50ha、大豆20ha、そば5ha、施設野菜5ha、露地野菜10ha、施設花き3ha、露地花き5haなど  
（中山間地域等の場合は、5戸以上の農業者参加、または取組面積1ha以上）

### ◆山形県園芸大規模集積団地整備支援事業

1. 事業内容  
産地パワーアップ事業に該当する事業計画のうち、4年後に販売額1億円以上を目指す大規模団地整備
2. 補助対象  
農業者、農業者団体で、産地パワーアップ計画の取組主体
3. 補助率 7／10以内（県6／10、市1／10）

## 導入可能な機械・資材の例

|                |  |
|----------------|--|
| 飼料用米<br>（区分管理） | コンバイン、乾燥機  |
| 水稲、大豆、<br>そば、麦 | コンバイン、田植え機、乾燥機、トラクター、ブームスプレーヤー 等   |
| 果 樹            | 雨よけ施設の新設・機能向上、加温・無加温施設機能向上のための資材、換気資材、遮熱資材、暖房機、細霧冷房装置等<br>簡易な排水資材、灌水、散水資材等、補助暗渠設置労賃、自動換気装置、棚用資材（パイプ、鋼線等）<br>防除用動力散布機（SS）、管理機、高所作業車、選果機、結束機、梱包機、冷蔵庫等<br>同一品種への改植（2a以上）に要する苗、棚、支柱、排水資材、等 |
| 施設野菜           | パイプハウス資材、遮光資材、保温資材、トラクター、管理機、マルチャー、防除機、暖房機、養液栽培施設、環境設備として暖房機等と同時に整備する炭酸ガス発生装置、細霧冷房装置、電照装置、換気装置 等   |
| 露地野菜           | 支柱、灌水資材、防草シート、簡易な排水資材、暗渠用資材等、補助暗渠労賃、土壤消毒機、トラクター（アタッチメント含む）、管理機、収穫機、草刈機（ハンマーナイフモア等）、育苗・促成に用いる暖房機、予冷库 等  |
| 施設花き           | パイプハウス資材、遮光資材、保温資材、トラクター、管理機、マルチャー、防除機、暖房機、養液栽培施設、環境設備として暖房機等と同時に整備する炭酸ガス発生装置、細霧冷房装置、電照装置、換気装置 等   |
| 露地花き           | 促成ハウス資材、トラクター、管理機、防除機、収穫、調整・選別機、予冷库等、収穫機、トラクターと同時に整備するハンマーナイフモア等   |

●お問合せ  
 酒田市 農林水産部 農政課  
 複合経営振興係 TEL26-5752



## ポイント

農業従事者の減少による労働力不足、ベテラン農業者のリタイアによる生産技術継承の困難、土壌中の有機物の減少による「地力の低下」などの課題。  
これらの課題解決のため、各自ほ場の地力を見える化し、施肥の適正化技術を学ぶことにより、土づくりによる収量の安定化を図るとともに、生産者の意識改革を促し、「スマート農業」への取組みに繋いでいく。

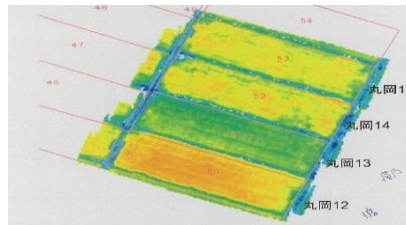
## 事業内容

### ◆スマート農業実践研修会の開催 ～オールインワン型ICT農業研修～

4月～10月まで全10回開催

#### ○主な研修内容

- ・稲作の現状
- ・土づくり  
土壌分析をもとに処方箋づくり
- ・センシングを学ぶ
  - ① ドローンを活用したセンシングの実証（田んぼの健康診断）
  - ② 画像解析による対策の検討
- ・良い米とは



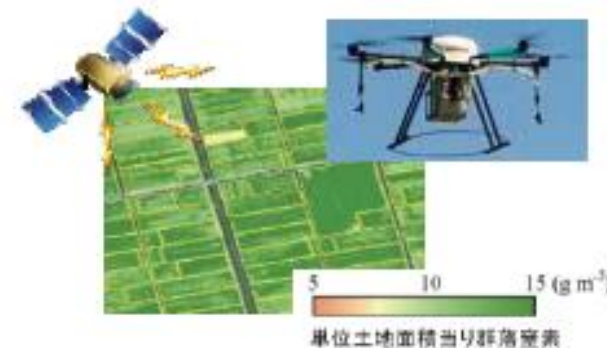
※受講生は生産者、営農指導員等36名を予定

### ◆スマート農業推進事業費補助金（補助率1/2）

- (1) 農業用ドローンオペレーター養成支援
- (2) 無人ヘリコプターオペレーター養成支援

## 事業目標

- 土づくりで気象災害に負けない米づくり
- 圃場内、圃場間の生育のバラツキの減少による収穫量の増加
- 良食味米の安定生産
- 酒田産米のブランド力の向上
- スマート農業への取組み促進



●お問合せ  
酒田市 農林水産部 農政課  
複合経営振興係 TEL26-5752